

⑳ 徳島南部自動車道（徳島沖洲IC～徳島JCT）の開通について

受賞機関 西日本高速道路株式会社 四国支社 徳島工事事務所

キーワード 最大支間長130mのコンクリート桁橋、吉野川サンライズ大橋、健全性をモニタリングするシステム

全建賞審査委員会の評価ポイント

徳島南部自動車道（徳島沖洲IC～徳島JCT間約4.7km）の建設。橋梁工事に当たり、周辺環境の保全のため、最大支間長130mのコンクリート桁橋の採用や環境モニタリングの実施、既往技術を最大限に活かした施工を行った点が評価された。

1. はじめに

四国横断自動車道は、阿南市を起点として、高松市、高知市を經由し、大洲市に至る全長約440kmの高速道路で、四国四県の広域的なネットワーク、本州四国連絡道路と相まって本州との結びつきを深め、四国における産業、経済、文化の発展に重要な役割を果たす道路である。四国横断自動車道の一部を形成する徳島南部自動車道は約22kmの路線であり、このうち徳島JCT～徳島沖洲IC間約4.7kmが令和4年3月21日に開通した。



位置図

2. 事業の概要

当事業区間は、盛土量約160万 m^3 と主に橋梁で整備されており、吉野川サンライズ大橋は、徳島県を代表する一級河川吉野川の最河口部に位置し、橋長1696.5m、橋梁形式PC15径間連続箱桁橋（最大スパン130m、プレキャストセグメント桁を採用）で既往技術を最大限に活かし施工を行い、河川に架かるコンクリートの道路橋としては国内最長級の橋となっている。また、橋長が長く、海上環境であることから、PCケーブルに光ファイバを組み込み、ひずみ分布を計測することで健全性をモニタリングするシステムを採用し、橋面排水を河川内に流さないようにするための排水管に代わり、高強度繊維補強コンクリート及び炭素繊維複合材ケーブルを用いたプレキャスト排水溝を採用するなど点検や維持管理にも配慮している。



開通式（令和4年3月21日）の様子

3. 事業の成果

今回の開通により、並行する国道（阿南市から鳴門市間の主要幹線道路）の慢性的な渋滞緩和、地域産業の活性化、観光の活性化等が期待されている。

また、今後発生が予想される南海トラフ地震で沿線地域における津波被害が想定されることから、高速道路の盛土部に津波一時避難場所を設けることで、地域住民の緊急的な一時避難場所として活用されることに対しても期待されているところである。



徳島JCT～徳島沖洲IC間の全景状況

4. おわりに

徳島南部自動車道は、「四国8の字ネットワーク」の一部を形成し、徳島県南部地域にとってまさに「命の道」であることから開通が期待される中、ようやく無事開通を迎えることができた。今回の開通に当たり、地域住民の皆様をはじめ、関係機関の皆様方のご理解とご協力、また、計画段階から工事に携われた数多くの諸先輩方のご指導と尽力に心より御礼申し上げる。

賛助会員 鹿島建設(株)、三井住友建設(株)、東洋建設(株)、川田工業(株)、鹿島道路(株)、(株)竹中土木、(株)エイト日本技術開発、(株)建設環境研究所、いであ(株)、大日コンサルタント(株)